

第4期
八千代市国民健康保険
特定健康診査等実施計画

ダイジェスト版

令和6年(2024)3月

八千代市

1. 特定健康診査等実施計画とは

「高齢者の医療の確保に関する法律」(昭和57年(1982)法律第80号)に基づき策定され、特定健康診査と特定保健指導の実施方法及びその成果についての目標を定める計画です。

※特定健康診査……メタボリックシンドローム(メタボ)に着目した、40歳～74歳を対象とした健康診査。加入している健康保険で受診することになっています。

※特定保健指導……健診結果からメタボに該当した人、メタボ予備群の人に対し、保健師等専門職が生活習慣改善の支援を行います。

特定健康診査等実施計画の第3期は平成30年度(2018)から令和5年度(2023)の6年間で実施してきました。今回策定する第4期は、第3期データヘルス計画とあわせて令和6年度(2024)から令和11年度(2029)の6年間の計画となります。

参照：計画の策定にあたって (計画P3～5)

2. 八千代市の状況

八千代市の人口は、令和5年(2023)3月末時点で20万4,818人となっています。国保データベース(KDB)システムによる八千代市国民健康保険の令和4年度(2022)被保険者数は、3万3,400人です。市の人口全体に占める被保険者数の割合(加入率)は16.8%となっています。被保険者の構成割合を見ると、男女ともに65歳以上の割合が高くなっています。

被保険者一人当たりの医療費は、令和4年度で月額2万7,317円となっており令和2年度以降年々増加しています。生活習慣病疾病別の令和4年度医療費は、高い順に、腎不全、糖尿病、高血圧性疾患となっています。

参照：八千代市の現状 (計画P6～12)

3. 第3期特定健康診査等実施計画の取り組み状況

(1) 特定健康診査と特定保健指導の実施状況

令和4年度(2022)の特定健康診査受診率及び特定保健指導実施率は次のとおりです。八千代市の目標値と比較して、特定健康診査受診率は達成できませんでしたが、特定保健指導実施率は、概ね達成ができました。また、千葉県平均と比較して、特定健康診査受診率及び特定保健指導実施率は、概ね下回りました。

■ 特定健康診査受診率及び特定保健指導実施率

	令和4年度 (2022) 目標	令和4年度(2022)実績	
		八千代市	千葉県平均
特定健康診査受診率 ※1	34%	31.1%	38.1%
特定保健指導実施率 ※2	21%	26.0% ※3	24.7%

$$\text{※1 特定健康診査受診率(\%)} = \frac{\text{特定健康診査受診者数}}{\text{40～74歳の特定健康診査対象者数}} \times 100$$

$$\text{※2 特定保健指導実施率(\%)} = \frac{\text{最後まで特定保健指導を受けた人数}}{\text{特定保健指導対象者数}} \times 100$$

※3 令和4年度(2022)の特定保健指導実施率には、令和3年度(2021)の実績が含まれる。

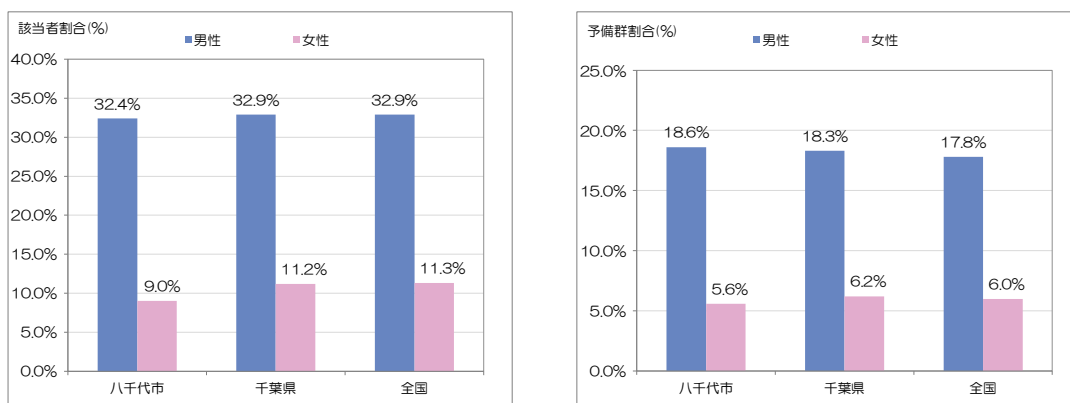
(2) 特定健康診査の結果からわかること

特定健康診査の結果から、生活習慣病の発症リスクが分かります。主な結果と基準値を超えた有所見者の割合を県や全国と比較しました。八千代市のBMIの有所見者割合は40歳～64歳の男性を除き低く、LDLコレステロールの有所見者割合は女性において高くなっています。また、喫煙や運動の生活習慣は全国より良い状況でした。

【メタボ該当者の状況】

メタボ該当者割合の推移を見ると、平成28年度(2016)から2.0ポイント増加し、令和4年度(2022)は18.6%でした。メタボ予備群該当者割合の推移も平成28年度(2016)から大きな変動はなく、令和4年度(2022)は10.9%でした。いずれも男性の方が女性の3倍程度多いです。

■メタボリックシンドローム該当者・予備群割合(令和4年度(2022))



国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」より

(3) 特定健康診査の受診状況と受診率向上のための対策

特定健康診査の受診状況は、男女ともに年齢が高くなると受診率も高くなる傾向があります。男性の40～59歳の受診率は20%を下回りました。男性よりも女性の方が受診率は高くなっています。

特定健康診査の受診率向上のため、電話やはがきでの受診勧奨だけでなく、集団健診の実施や受診券をがん検診の受診券と一体化する、生活習慣病で定期的に通院している人に、医療機関からの受診勧奨を依頼するなどの取り組みを実施した結果、受診率は少しずつ上昇中です。

(4) 特定保健指導の実施状況と実施率向上のための対策

健診結果により生活習慣病の発症リスクに基づいて階層化を行い、「動機付け支援」、「積極的支援」として特定保健指導を実施しました。男性よりも女性の方が特定保健指導の実施率は高い状況にあります。

また、特定保健指導の対象となった人のうち、生活習慣を改善したことなどにより翌年度は特定保健指導の対象から外れた人の割合を調べると、特定保健指導対象者全体は16.0%だったのに対し、特定保健指導利用者は20.6%と4.6ポイント上回りました。

特定保健指導の実施率向上のために、利用勧奨のほかに面接を夜間・土日に実施するなど取り組んできました。

参照：第3期特定健康診査等の取り組み状況について（計画P13～42）

4. 第4期特定健康診査等実施計画の概要

令和11年度(2029)の目標は、特定健康診査受診率が37%、特定保健指導実施率が23.5%です。受診率・実施率を少しずつ上げていくために、次の取り組みを実施していきます。

■ 特定健康診査受診率向上施策

取り組み	内容・目的
① 未受診者への受診勧奨	未受診者の人に対して、文書や電話で受診勧奨を行います。
② 国民健康保険新規加入者への受診勧奨	国民健康保険新規加入者に対し、国保年金課窓口での受診勧奨を実施します。また、はがきでの受診勧奨を実施します。
③ 指定医療機関以外での実施結果登録	指定医療機関以外で受診した人間ドックの費用助成を行い、健診結果の登録を行います。またJA八千代市組合員健診の結果も登録します。
④ 40～50歳代が受診しやすい環境の整備	集団健診を40～50歳代の受診率が低い地区で実施することを検討します。また働く世代向けに土日を含めた日程の設定を行います。集団健診のインターネット申し込みを検討します。健診も医療も受けていない人を健診に結びつけるため、キャッチフレーズを利用したポスターを公共施設や商業施設に掲示し、受診勧奨をします。
⑤ 特定健康診査委託医療機関からの受診勧奨	特定健康診査未受診者の約4割が生活習慣病で治療しています。定期通院中の特定健康診査未受診者へ、かかりつけ医から特定健康診査の受診勧奨を行っていただくために、職員が医療機関に出向き定期通院者への受診勧奨を依頼します。また受診勧奨用のパンフレットを作成し、配布を依頼します。

■ 特定保健指導実施率向上施策

取り組み	内容・目的
① 集団健診時における初回面接の利用率向上	特定健康診査を受けた直後の健康意識が高いうちに、特定保健指導が利用できるように体制を整えます。
② 利用者の利便性の向上	面接日は開催曜日を分散させ、毎月平日の夜間及び土日にも面接日を設定します。また、情報通信技術を活用した遠隔面接の実施や、希望者には訪問による初回面接を実施します。
③ 未利用者への再勧奨	未利用者に対して、電話や文書で利用勧奨をします。
④ 医療機関からの利用勧奨	職員が医療機関に出向き、医療機関で特定健康診査を受診した際の結果返却時に、医師から結果説明と共に健診結果振り返りシートを用い、特定保健指導の紹介及び利用勧奨を依頼します。
⑤ 効果的な特定保健指導の実施	庁内部署及び委託事業者との連携体制を整え、事業を円滑に実施します。積極的支援の支援期間を、6カ月から3カ月に短縮し集中的に支援を実施します。
⑥ 生活習慣改善の継続に向けた支援	健康づくり課主催講座や健康づくりの社会資源の紹介など、生活習慣改善の継続ができるように支援します。

参照：第4期特定健康診査等の実施目標（計画P43～51）

第4期八千代市国民健康保険特定健康診査等実施計画
ダイジェスト版
令和6年度(2024)～令和11年度(2029)

編集・発行

八千代市 健康福祉部 国保年金課